



平成20年5月9日

各 位

東京都品川区東品川四丁目12番8号
株式会社S Jホールディングス
代表取締役会長兼社長 李 堅
(JASDAQ: 2315)
問 合 せ 先 :
取締役経営・管理本部長 木村 裕
Tel 03-5781-7311(代表)

業績予想（連結・個別）の差異の発生及び特別損失の発生に関するお知らせ

平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)の連結業績予想及び個別業績予想について、平成19年5月15日付当社「平成19年3月期決算短信（連結）」にて発表いたしました業績予想に差異が発生いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、当該期間の連結業績に係る特別損失が発生いたしましたので、その内容についてお知らせいたします。

1. 平成20年3月期の連結業績予想の差異の内容(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	29,354	2,989	2,872	1,701
今回修正 (B)	25,840	1,720	1,682	272
増減額 (B-A)	△3,514	△1,269	△1,190	△1,429
増 減 率	△11.97%	△42.46%	△41.43%	△84.01%

【ご参考】前期の連結実績(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(単位：百万円)

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
35,241	2,386	2,371	1,353

2. 平成20年3月期個別業績予想の差異の内容(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	1,126	599	473	393
今回修正 (B)	1,973	1,422	1,267	1,254
増減額 (B-A)	847	823	794	861
増 減 率	75.22%	137.40%	167.86%	219.08%

【ご参考】前期の個別実績(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(単位：百万円)

営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
1,176	694	535	393

3. 連結業績予想の差異の発生理由及び特別損失の内容

①当期売上高について

第4四半期に売上げの計上を予定しておりましたサン・ジャパンの受託開発案件について、一部顧客の都合による開発着手の遅れにより約200百万円の売上げが減少し、更に、期初売上計画の見達により約800百万円の売上げが減少いたしました。また、聯迪恒星電子科技（上海）有限公司（LD SH）で第4四半期に予定しておりました、約2,000百万円の中国国内向け公共関連のSI事業について失注するなどの理由により、連結当期売上高におきましては、当初予想に対し3,514百万円の減少となる25,840百万円となる見通しです。

②当期営業利益について

サン・ジャパンでは、2006年度より受注の安定化を目指し、特定顧客の受注シェア拡大を営業戦略として参りました。これにより、将来の安定受注に向けて当期は売上げ全体に占める特定顧客のシェアが着実に増加いたしました。また、売上の減少に加えて、人材の集中化などによる人材投資費用がかさみ、また、一部顧客の都合による開発着手の遅れによりシステム開発要員の不稼働が発生するなど、原価率の上昇により約600百万円の売上総利益が減少いたしました。

更に、中国国内で金融関連端末を開発・製造・販売する福建聯迪商用設備有限公司（LD CE）におきまして、受注の急激な拡大によって新たに製品保守を外注化したことに伴い、大幅に販売コストが増加したうえ、中国国外企業の金融関連端末事業参入による競争激化に伴い、研究開発費用が増加し採算性が悪化いたしました。

これらの理由により、連結営業利益につきましては、当初予想に対し1,269百万円減少の1,720百万円となる見通しです。

③当期経常利益について

営業利益の減少に加え、グループ内貸し付けに伴う為替差損益の発生により、連結経常利益につきましては当初予想に対し1,190百万円減少の1,682百万円となる見通しです。

④当期純利益について

2006年度よりサン・ジャパンにおいて新規事業としてEDI事業に取り組み、当期は顧客拡大とサービスの充実のための設備投資を実施して参りましたが、受注の伸び悩みにより年間費用で約2億円が吸収しきれませんでした。そこで、次期以降の利益率の向上と、来期以降のグループ戦略において、サン・ジャパンでは自社の強みとする日中分散開発の強化、新規の大型受注案件への資源集中、及びグループオフショア事業拡大のための国内営業強化のため、本事業を大幅に縮小整理することとし、これに伴いリース資産売却に伴う351百万円の特別損失が発生いたしました。加えて、サン・ジャパン及びS Jアルピーヌに投資有価証券評価損として98百万円の特別損失が発生いたしました。また、中国の子会社において債権の補償として不動産を取得いたしました。これらについて保守的に評価し、貸倒引当金として357百万円の特別損失を計上いたしました。

以上、これらの損失の発生等により、連結当期純利益におきましては当初予想に対し1,429百万円の減少となる272百万円となる見通しです。

4. 個別業績予想の差異の発生理由

当社では、将来の事業提携や資本提携など来期のコーポレートアクションの実行に備えて、資産の充実をはかる必要があります。また、グループ内再投資による事業育成や、新たなパートナー企業との協業、事業投資活動によるグループ外戦力の取り込みなど、グループ事業戦略の遂行にあたりグループ内資金の集約と効率化をすすめる必要があることから、グループ子会社による臨時配当を実施いたしました。

これにより、営業収益は、当初予想に対し847百万円の増加となる1,973百万円となる見込みであり、営業利益は、当初予想に対し823百万円の増加となる1,422百万円となる見込みであります。

経常利益につきましては、上記の理由に加え、為替差損の発生等により営業外費用が増加しましたが、当初予想に対し794百万円の増加となる1,267百万円となる見通しです。

以上により、結果として当期純利益につきましては、当初予想に対し861百万円の増加となる1,254百万円となる見込みであります。

以上

※上記の差異の内容につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しています。

実際の業績は、今後、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。